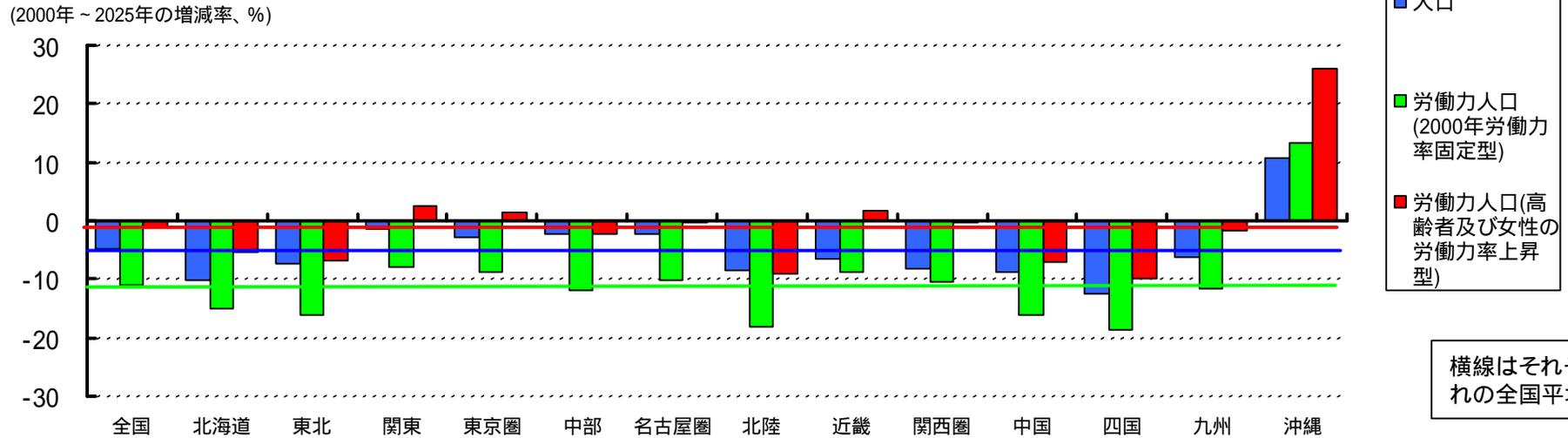


人口・労働力人口の今後の増減率

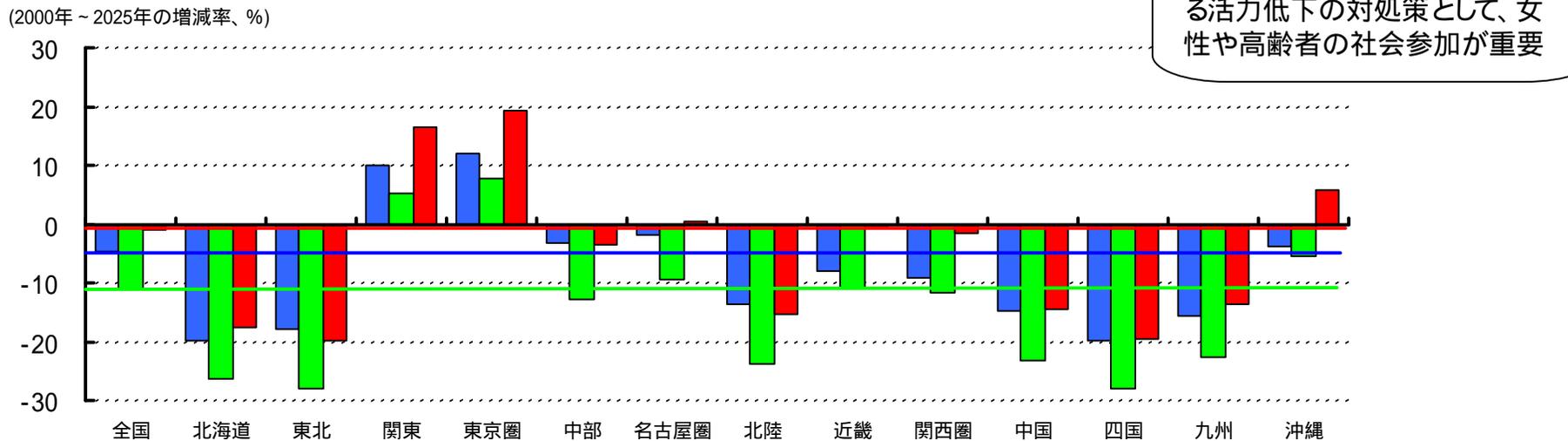
参考資料 5

ブロック別 (2000年～2025年)

【ケース1:1990年～1995年移動率固定型推計値】



【ケース2:1985年～1990年移動率固定型推計値】

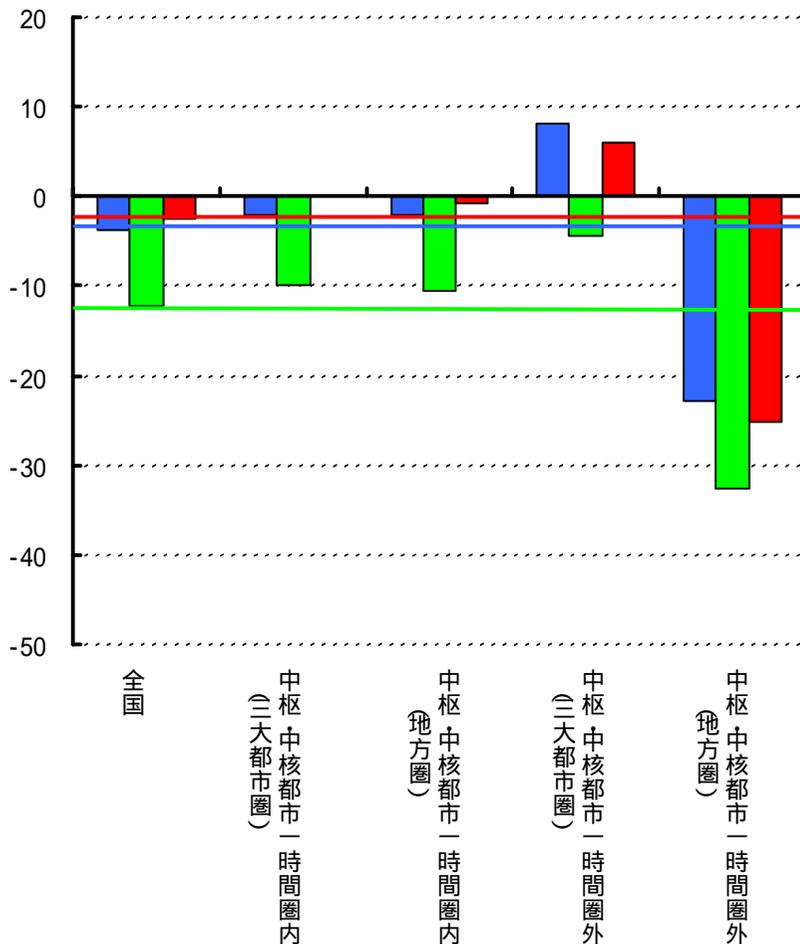


(出典) (注)は次ページに同じ。

中枢・中核都市から1時間圏の内・外別 (1995年～2025年)

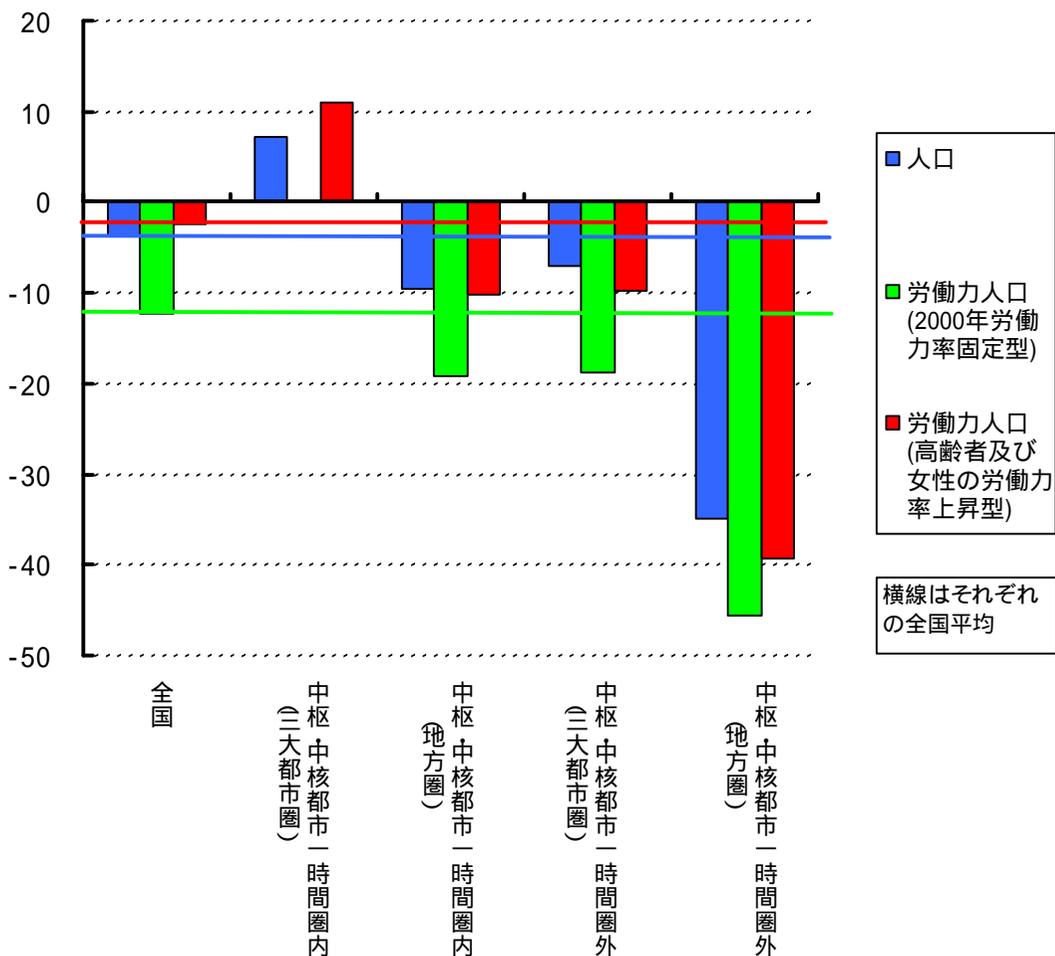
【ケース1:1990年～1995年移動率固定型推計値】

(1995年～2025年の増減率、%)



【ケース2:1985年～1990年移動率固定型推計値】

(1995年～2025年の増減率、%)



■ 人口
■ 労働力人口 (2000年労働力率固定型)
■ 労働力人口 (高齢者及び女性の労働力率上昇型)
横線はそれぞれの全国平均

(出典) 総務省「国勢調査報告」、ILO “YEARBOOK OF LABOUR STATISTICS 2000”、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(1997年推計)」をもとに国土交通省国土計画局作成。

(注) 1. 2000年の労働力人口実績値は、国勢調査抽出速報集計による。

2. 将来の労働力人口は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(1997年)」をもとに国土交通省国土計画局で推計した男女別年齢5歳階級別人口に以下の労働力率を乗じて算出。

(1) 2000年労働力固定型・・・2000年の労働力率(全国値)を乗じて算出。

(2) 高齢者及び女性の労働力率上昇型

・女性の25～59歳の労働力率はスウェーデン(主要国中で女性の労働力率が最も高い)の1999年の水準まで上昇する。

・男女とも60～64歳の労働力率は、2000年における55～59歳の水準(全国値)まで上昇する。